

平成 25 年度事業報告

1 公益目的事業

① 対馬丸記念館の管理運営事業

ア 常設展事業

対馬丸記念会は、平成 25 年 4 月 1 日を期して財団法人から公益財団法人へ移行し新たな法人として出発した。記念館の展示を通して対馬丸事件の歴史を伝えて二度と悲しみを繰り返さない「学びの場」となり、子供達に平和の種を蒔く場として、引き続き記念館の管理運営に万全を期すとともに展示資料等の整備保存に努めた。

イ 特別展事業

(ア) 感性と知性の調和のとれた子供の成長を促し、子供たちの自由な表現から改めて平和の大切さを感じてもらうために、沖縄タイムス社主催第 61 回全琉図画・作文・書道コンクール「那覇秀作展」を開催した。平成 25 年 12 月 25 日～平成 26 年 1 月 19 日 観覧者 822 人。那覇市内小学校 33 校、231 点 中学校 19 校、108 点の作品（図画・作文・書道の最優秀賞・優秀賞）を展示。本展示会を機会に初めて来館した人がアンケート回答者の 86 パーセント 211 人であり、対馬丸を知って貰う良い機会になった。

(イ) 小桜の塔の建立に尽力した愛知県、平成 24 年に同県にある「ピースあいち」が対馬丸生存者による講演とともに企画展「対馬丸沈没展」を実施した。同館の所蔵するパネル、関連実物資料を借用して交流展として、
「戦争と動物たち一ぎせいになった動物たちと生き延びた動物たちの物語」を開催した。8 月 10 日～9 月 10 日 観覧者 1,335 人
実物資料など親子で学べる展示内容とした。戦争によって、人間と同じく動物たちも命を失ったことを知って貰い、改めて戦争の悲惨さと命と平和の尊さを考える機会になった。

ウ 対馬丸及び学童疎開に関する調査・研究事業

対馬丸の悲惨な歴史に関する証拠資料の収集に努め、学童疎開について調査研究をした。

エ 来館促進支援事業

(ア) 対馬丸記念館のリーフレットの印刷、来館促進のために県内外に配布
県外への配付

愛知県の中学校 388 校及び高等学校 162 校 計 550 校

広島県の中学校 235 校及び高等学校 87 校 計 322 校

(イ) 沖縄県修学旅行推進協議会平和学習分科会（県主催）に参加し、修学旅行における平和学習の課題等について意見交換した。

平成 25 年度入館者数…15, 236 人

② 対馬丸戦没者の追悼と遺族等の福祉の向上並びに地域住民との交流促進

ア 対馬丸戦没者の追悼と慰霊祭の挙行

8 月 22 日は、小桜の塔前で慰霊祭を挙行し、遺族、生存者、関係者で戦没者の御霊の冥福と世界の恒久平和を祈念した。参加者約 350 人

イ 語り部事業

生存者や遺族等の語り部による県内外での講話や小中学校等からの依頼に応じて出張講座を行った。

実績 延べ 152 回（内訳：館内 97 回・館外 55 回）

ウ 相談事業

那覇市社会福祉協議会の資格を有する経験者に依頼し第 2・第 4 木曜日に（24 回）デイケアを行い、その他健康や各種年金に関する相談などで、遺族等に対し助言・相談を行った。

エ 講習会及び遺族と地域住民との交流促進

遺族等が健康で不安なく生活していけるよう、医療関係者や対馬丸の悲惨な歴史について様々な活動を通して伝えている方を講師として、「ちゃーがんじゅー講座」を 2 回開催。

(ア) 平成 25 年 9 月 14 日（土） テーマ：「響け平和の肝心」^{チムググル}

講師：山田 健 氏 混声合唱団クリスタルコールおきなわ指導者
平和をメッセージする合唱団として演奏活動をしている同合唱団、栄光メイツ合唱団及びつしま丸児童合唱団が合同演奏し、民謡や童謡を地域の人々や高齢者ととともに歌った。交流を深めるとともに平和とは何かを見つめなおす機会を持った。

(イ) 平成 26 年 2 月 22 日（土） テーマ：「タバコが奪う沖縄の未来」

講師：医学博士 山代 寛 氏

タバコと受動喫煙が及ぼす害、本県における若年層や妊婦への喫煙の広がり、禁煙外来、関係機関の取り組みについて報告された。

オ 広報活動

(ア) 広報誌「対馬丸通信」を 2 回発行。遺族や生存者及び協力会員、支援者などに配賦し、対馬丸記念会の活動紹介と対馬丸記念館の運営状

況等を紹介した。

- (イ) 「移動教室年鑑 体験学習」に対馬丸記念館の広告掲載を行った。同書は全国の殆どの小・中・高校、図書館、地方自治体等 50,000 ケ所に配布され、校外事業の手引きとして活用されている。

③ 子供達に対馬丸の悲慘な歴史を伝え平和を発信する事業

ア 子供達の平和学習推進事業

- (ア) 平和学習推進連携委員会を 2 回開催した。

平和担当教師の研修計画、ワークブックの活用など平和学習推進連携について那覇市教育委員会指導主事（平和行政担当）、平和専門家、那覇市内小・中学校教師各 1 名、対馬丸記念会理事長の 5 委員で協議

- (イ) 第 1 回那覇市内全小中学校（54 校）平和教育担当教師研修会開催
- (ウ) 対馬丸事件・沖縄戦に関するアンケート調査実施（H25、26、27 年度実施予定）初年度として那覇市内全中学校 18 校、私立中学校 2 校
- (エ) 平和創造の杜構想事業実施

記念館の活動を総括するとともに旭ヶ丘公園とその周辺に点在する慰霊碑、顕彰碑等を活用して沖縄戦や本県の歴史、文化への理解を深めるためにテキスト「旭ヶ丘公園平和の杜～対馬丸記念館と慰霊碑・顕彰碑めぐり」を作製した。

- (オ) 第 1 回子供平和会議 ～国際理解・平和のキーストーンをめざし～
会議テーマ「グローバルシティズン」～地球の一員であることを自覚・行動する考え～

沖縄尚学高校、県立 3 高校の生徒 60 人によるグループ討議

ドイツにおける移民問題について議論し、合意形成を図りながら地球社会の一員として自覚、行動する考えを身に着けた。あらゆる問題について実践的な解決方策を見つけ出すきっかけになり、将来、平和な社会を形成する主体になっていくものと期待される。

- ・プロジェクターの購入・取替え

イ 子供達による平和活動発信事業

対馬丸記念館を通して、子供たちが日常的、主体的に平和活動、平和発信が行えるようにすることを目的とする事業（オーナーシップ事業）
平和学習の一環で作成した作品を展示した。

- (ア) つしま丸児童合唱団の活動を推進

(イ) 那覇市立天妃小学校 5 年生 平和新聞の個人作成

(ウ) 那覇市立安謝小学校全児童 「対馬丸」垂れ幕（対馬丸乗船者 1661 人）

(エ) 沖縄市立島袋小学校 5・6 年生 紙芝居、壁新聞

2 収益事業「物品販売・会議室賃貸事業」

実績：自動販売機2台の販売手数料収入（172,682円）

書籍「対馬丸 沈む」の売上金収入（29,295円）

3 その他事業「旭ヶ丘公園周辺緑化事業」

公益財団法人沖縄緑化推進委員会から「緑の募金事業補助金」交付を受け、小桜の塔周辺に花木（ハマユウ、ランタナ、クメノサクラ）を植え環境整備を図った。

4 法人会計「管理事業」

対馬丸丸記念館の管理運営を実施するとともに、対馬丸記念会の理事会及び評議員会の開催、庶務経理業務等を実施した。